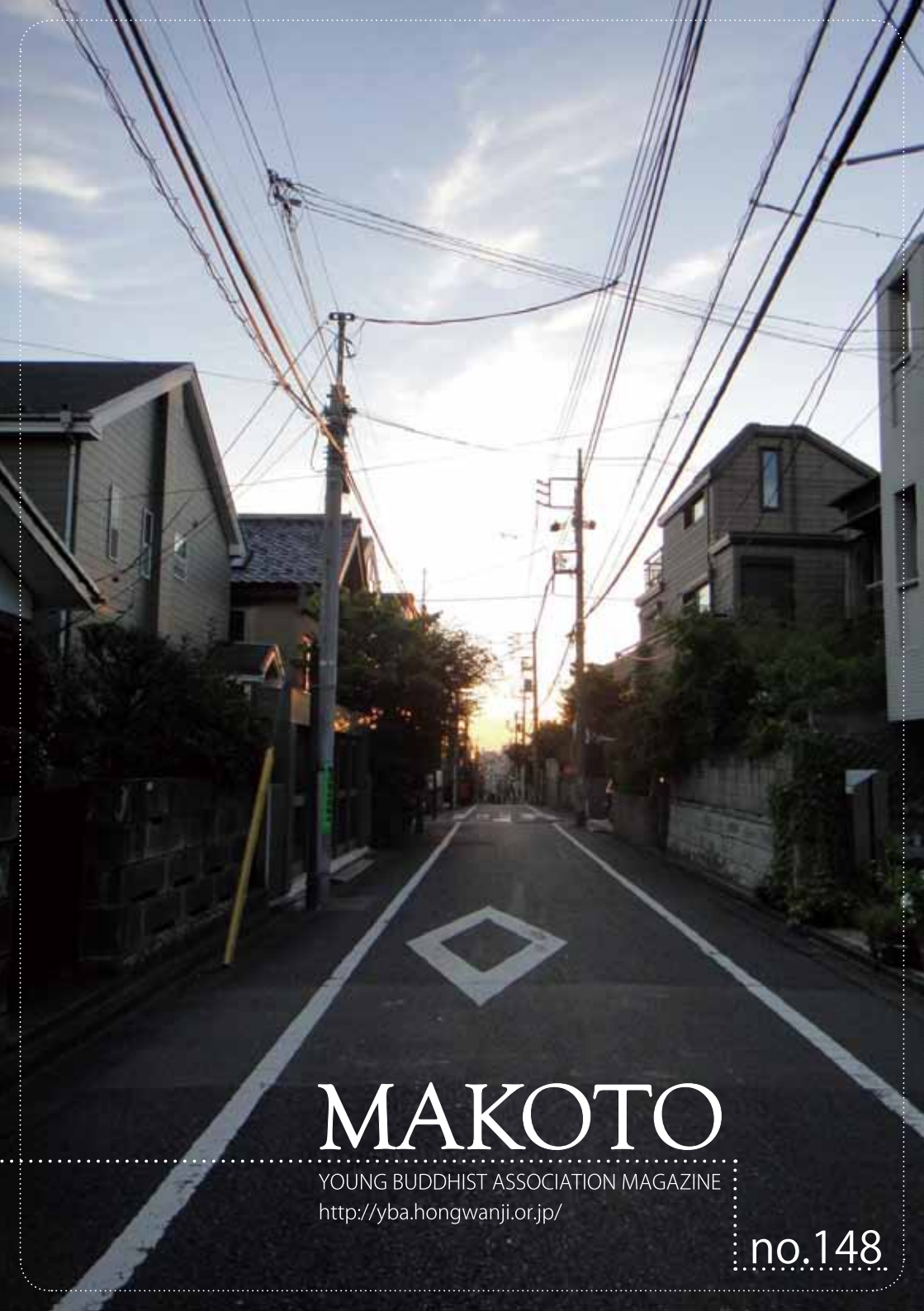




MAKOTO

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE

<http://yba.hongwanji.or.jp/>

no.148

A red gift box is shown with a clown doll on top. The doll has a red hat, a large red nose, and a wide red smile. It is wearing a white bow with red hearts. A white paper cutout with the Japanese text "はいまる" is placed in front of the doll. The background is a warm, out-of-focus yellow and orange.

はいまる

新たなはじまり
はじまりはたくさん
あなたの前にも
ほらたくさん
まだ僕らは
みつけていないだけ
もしかしたら
今、始まるかもしれない

目次

- 04. 「はじまる」
- 06. 帰敬式というはじまり
- 08. 連盟中央委員長あいさつ
- 09. 日々感謝、気づきとはじまり
- 12. 全国真宗青年の集い四国大会
- 14. 彼國の便り
- 15. 編集後記

「はじまる」

それは、「不安」と「期待」のはじまりでした。

平成24年4月10日に、本願寺仙台別院から「仏教青年連盟の中央委員になってほしい」との依頼がありました。

今の自分に「仏教青年連盟の中央委員」をやる能力と時間はあるのだろうかということを考えました。自分のお寺に仏青も結成してないのに仏青の活動ができるのか、自分の能力以上のことをするのだろうか、お寺の行事に支障が出ないだろうか、考えましたが、「まあいいや、何とかなるだろう」とひき受けることにしました。

中央委員になるということ、何か新しいことをはじめるということは、「不安」と「期待」が入り交じります。例えば、学校で新入生になる、新入社員として働く、結婚して夫婦になる、子どもが生まれて親になる、など。

何も自分から進んで新しいことをはじめなくても時間の経過や環境の変化により、日々新しいことは、はじまります。



昨年の日本の状況を思い出して下さい。
3月11日に東日本大震災が起こり、岩手県、宮城県、福島県の三県を含む東日本は、甚大な被害を受けました。一瞬で多くのいのちが失われました。

私が住んでいる福島県は原発事故が起こり、一年たった今なお、家族が離ればなれの避難生活が続け、苦しみの中に生きている人が大勢います。

「復興」という言葉も新たななじまりの一つになるでしょう。

『まこと』を読んでいる皆さんが、今後お寺で仏書の活動をしていく、何か新しいことをはじめることは「不安」と「期待」の連続かもしれません。しかし、その「不安」と「期待」を支えあう仲間がいることを実感し「楽しみ」と「よろこび」に変えていくことも大切なことではないかと思います。

ともに仏書の活動を盛り上げていきましょう。

文・海野 康成



成人式での帰敬式の様子

ききようしき 帰敬式というはじまり

お葬式、ご法事、お寺にお参りした時、私たちは日々折々に、なんまんだぶ……なんまんだぶつ……と、お念仏申します。お仏壇、ご本尊の前に限らず、いつでもどこでも、お念仏を称える方もいらつしやいます。

ところで、あなたは一番最初に称えたお念仏がいつだったか覚えていますか？
様々な機会で称えているお念仏。
はじまりは一体どのような機会だったのでしょうか？
私たちそれぞれに、最初のきっかけがあったはずです。

私にとってのお念仏のはじまり。

それがいつのことだったのか、何がきっかけだったのか
思いを巡らせてみて……

いつの頃からか、お寺やお仏壇の阿弥陀さまに手を合わせ
お念仏申すようになっていた、という具合です。

おかみそり（帰敬式）を受けた時に、親鸞聖人の御前で
申したお念仏は忘れることができません。

お念仏を私たちへお伝えくださった親鸞聖人が
ナンマンダブのお同朋^{とも}だちだと

私を迎えてくださっているようでした。

本願寺には帰敬式（おかみそり）という儀式があります。阿弥陀さま・親鸞聖人の御前で、三帰依文※1）をお唱えし、おかみそりを受ける儀式です。南無阿弥陀仏のおいわれをわたくしたちにあきらかにしてください。親鸞聖人の御前で、浄土真宗の門徒としてお念仏申す生活を始めることを誓う大切な儀式です。とても厳かで、素敵な式です。

帰敬式は朝6時のお晨朝（本願寺の朝のお勤め）後とお昼1時半からの1日2回執り行われます（※2）。式は正座で受けますが、正座が困難な方にはイスが用意してあります。「受式冥加金」、「帰敬式受式願」が必要となります。申込は帰敬式の1時間前までに本願寺の正面の門に入って、御影堂に向かって左の龍虎殿（参拝教化部）での受付となります。帰敬式受式願は本願寺ホームページから印刷してご利用いただけます。

※1 「南無帰依仏 南無帰依法 南無帰依僧」です。「仏」とは、私たちを導いて下さるほとけさまです。「法」とは、み教えです。「僧」とは、み教えに生きる人々で、この三宝を敬うことを誓う御文です。

※2 法要がお勤まりになる日は、1時から執り行われます。また、帰敬式が行われない日もありますので事前に本願寺に連絡し、日取りを確認してください。

文・野口 哲城



中央委員長



濱本信太郎

この度、中央委員長に新任致しました、安芸の濱本信太郎です。
昨年は親鸞聖人750回大遠忌法要が行われ、各地で様々な行事が行われました。仏青でも法要に向けて10か年計画を目標として起ち上げ、実行してきました。法要までの10年間、皆さんはいかがお過ごしになられたでしょうか？法要を終え、これから仏青は次の目標に向けて進まなければなりません。皆さんは何か目標を持っていますか？

仏教の無常観を表したことで有名な兼好法師の『方丈記』の文中に「あした；朝にだれかが死んだとしても、夕べには生まれてくるものがある。人の世は無常である。」とあります。人生はどのくらいの時間があるかわかりません。大切なのは、毎日その日の目標を持って生きることだと思います。

私たち仏青は、これからの真宗や社会を支え、貢献していくために何ができるのかを考え、目標として行きます。阿弥陀さまに見護られていることに感謝しながら、身近な目標を毎日立て、一日を無駄にしないように過ごして行きましょう。

A close-up photograph of a person's hands washing a white plastic bottle under a chrome kitchen faucet. The faucet has a white aerator. Water is spraying from the aerator onto the bottle. The person is wearing a blue long-sleeved shirt. The sink is stainless steel. In the background, there is a green brush and a yellow sponge. The text "日々感謝、気づきとはじまり……" is written vertically in the center of the image, enclosed in a dotted rectangular frame.

日々感謝、
気づきとはじまり……



今作MAKOTOのテーマ『はじまる』。私自身21歳になり、いろいろ始まったことがありました。そのなかでも一番心に残っているのは私の母親から学んだ事です。

少し母親を紹介します。今年44歳で、体型ふくよか、身長低め、顔は角野卓造さんみたいな母親です。とても賑やかでムードメーカーです。私の家族は、厳しい父親、母親、祖父、祖母、弟2人、私の7人家族で母親は朝から晩まで7人分の家事を行いながら、パートにも勤務しています。私はそんな母親を大変そうだなあと見ていました。

ある日、母親は夕ご飯の洗いものを終わると、勉強している三男坊拓海たくみ（中2）の勉強を教えていました。勉強は順調に進んでいると思いきや、拓海は問題がわからなくなるとイライラし、その矛先を母親に向けて教えてもらっているにも関わらず「うるさいわ、あつちいけ」と追い返していました。それでも母親は問題が理解できない拓海を心配し、また教えに行くということを繰り返していました。

そういえば私自身も弟と同じ頃、同じことをしていたなと懐かしくなつて笑えてきました。当時の私も追い返してしまうのですが、また教えるにしてくれる母親に安心感を覚えていた気がします。私の父親はとても厳しかったので、父親には全く反抗できず、苛立ちやストレスは全て母親にぶつけて、随分理不尽なことも受け止めてもらっていました。叩いてしまうこともよくありました。それでも母親は私のそばに居てくれて、私がいじめに遭った時も相談に乗ってくれました。一緒に悲しんでくれたことも覚えています。そんな自分を思い出していると、母親に対して

ほんとに申し訳なくなってきました。しかも、そんな状況を私と弟たち合わせて3人分も働いてくれている。それなのに私は感謝の気持ちも伝えられず、それどころか未だに反抗してしまうことを駄目だなあと感じて過ごしていました。

何日か経ち、友達とショッピングモールへ買い物に行きました。ちょうど5月初旬で母の日が近かったので何か買って行こうかなと思い、2000円のネックレスを買うことにしました。簡単にラッピングしてもらい、帰宅。その日の夜渡すことにしました。しかし、渡そうとする、ついつい恥ずかしくなり、感謝の言葉すら伝えることが出来ませんでした。「これやるわ」の一言のみで、ただ渡す事しか出来ませんでした。それなのに母親は、渡した途端に涙を浮かべ、笑顔になりとても喜んでくれました。「ありがとう、ありがとう、ありがとう」と笑顔で言うてくれました。息子の私でも初めて見るような笑顔でしたので、とても印象に残っています。2000円のネックレスでこんなにも喜んでくれる母親を見ると、嬉しくなり、なぜかホッと安心しました。

いつも迷惑ばかりかけて、感謝の言葉も忘れているのにも関わらず、それでも母親は私に対してはたらきかけてくれる。2000円のものを送っただけでは到底釣り合わない事をしてもらっているのに、私に見返りを求めずにはたらきかけ続けてくれる。いつも自分勝手な気持ちが先行して母親優先で物事を考えるのが少ないのに、私を捨てずに大切に想ってくれている。そんな母親に心から感動し、本物の感謝の心をはじまった気がしました。

文・巖根 眞弥





全国真宗青年の集い 四国大会に参加して

文・上高原 直樹



kizuna
PROJECT 2012

ずっと つながっていた
そして これからも



全国真宗青年の集い

2012年 7月 28日(土) ~ 29日(日)

会場 香川県丸亀市市民会館

28 DAY スペシャルゲスト&トークセッション



釈 徹宗 浄土真宗本願寺派京都府住持
香山 リカ 精神科医 札幌医科大学
上田 紀行 文化人類学者 東京大学
池坊 由紀 華道家元長女 文楽家元
リベラリアン・センター 代表

スペシャルライブ



ぶくい 舞 シンガー・ダンサー
三浦 明利 浄土真宗本願寺派大阪府住持
シンガー・ダンサー



2012

絆 ずっとつながっていたそしてこれからも
全国真宗青年の集い
四国大会

日時 平成24年7月28日(土)
受付+開場 11時30分
開演 12時30分
会場 丸亀市市民会館大ホール



7月28日から29日にかけて、うどん県骨付島市(香川県丸亀市)にて「全国真宗青年の集い 四国大会 in 香川」が開催されました。私は今回全国大会に初参加ということと、香川県へ初上陸ということで、前々から非常に楽しみにしていました。

会場の丸亀市民会館に着いて最初に感じたことは、私の地元鹿児島よりも「とにかく暑い」ということでした。しかしその暑い中、スタッフのみなさんはもっと熱く、一生懸命参加者の誘導やお出迎えをしてくれちゃって、私も「よし、今回の大会で何かつかんで帰るぞ」という気持ちになりました。

そして、待ちに待った大会が始まりました。開会式を経てのトークセッション。4人の先生方による「絆～現代社会と仏教～」というテーマのディスカッションは、今自分が仏青として社会に対して何ができるか、どう考えていけばいいかを考えさせられました。その後は、三浦明利さん、ふくい舞さんによる素敵な音楽ライブが行われ会場もとても盛り上がりしました。その後、ホテルの方に移動し懇親会をかねた夕食会があり各地区の仏青の会員の方々と交流をしました。

そして、2日目、朝から昨日のトークセッションをもとに、各グループに分かれてグループディスカッションを行いました。いくつかのテーマの中、私たちの班は、「いじめ」について話し合いました。「いじめ」というのは子どもと大人の間では大きく違うもので、特に子どものいじめについては、家庭でなかなかコミュニケーションがとれなかったりする子どもに多いのではないかなという話になりました。そして、仏青として子ども会などで、話を聞いたり、親御さんとお話をしたりすることが、解決に向かうのではないかなということになりました。こうやって、仏青活動に参加していて、参加しているだけでなく、どのように社会的に貢献できるかを確かむことができました。

私が初めて参加した全国大会はあっという間に終わりました。スタッフの皆さんや、参加者のそれぞれの思いが伝わる、とても濃い内容の大会だったと思います。

ひこく 彼國の たよ 便り

昨年一昨年と続けて三人の親を亡くした。日頃から諸行無常とお聞かせいただいているが、葬儀では色々な思いが込み上げてきて、お勤めの声がふるえる。浄土真宗のお勤めのときに読む聖典には、私を救わんとしてはたらく、阿弥陀如来のご苦労が書かれている。計り知れない縁起の中で生まれてきた私の事を、かけがえない命として慈しんでくださること。私を救うためにとてつもない長い間思惟^{しゆい}され、身を削るようなご修行をされたこと。すべての生きとし生けるもの（衆生）が浄土に生まれ仏にならなければ、自分も決して仏にはならないと誓われたこと、などなど。そんな阿弥陀如来のことを、先人たちは「親さま」と伝えてくれている。

阿弥陀如来のご苦労と自分の親たちの姿が重なり、合わさるぬ手が合わさり、下がらぬ頭が下がっていく。私を育てるその陰でどれほどの苦労があったのか、今までちゃんと考えたことがあるだろうか。親たちの思いも考えず、悲しませ笑顔を奪って生きてきたのではないか。どれだけ親に涙を流させたのだろうか。

そんなことを考えていると「ややこしいこと考えんと、ここに座つてお茶でもお飲み」という親たちのやさしい声が聞こえてくる。苦労を苦労と思わぬ親心。子の思いより常に先手である。私の心に還ってきてくれる親たちはいつも笑顔だ。

今回から広報の委員長になりました。自分としてはもっともっている人々に興味を持ってもらえるMAKOTOにしたいと考えているので、これからもみなさんは非ぜひ手にとって読んでみてください。仏青にしかできない、考えられない、作れないもの。自分たちの色をもったMAKOTOをこれからも応援よろしくお願いします。

上高原 直樹

今回のテーマは「はじまる」。何もかもが初めてのことで大きな仕事をさせていただき、貴重な経験になりました。やはり文章を書くことって難しいです。でも、最近の自分はマイペースな生活をしていたので、まことの制作にたずさわられて「のん気な状態」から抜け出せた気がします。これを機会に、自分も何か新しいことをはじめられるきっかけになれば、嬉しいです。

海野 康成

テーマは「はじまる」ということで、私は当初、東日本大震災の記事を書くつもりだったのですが、ボランティアに行けなくなって断念。そこで自分の「はじまる」を考えたのですが、普段全く考えないことなので、最初『どうするう』っていう感じでした。でもよく考えると、とてもいろんな事が始まっていたんだ。とビックリ。「人ぼーっ」とする時間もあるんなご縁を気付かせてくれる、貴重な時間だと実感しました。

巖根 眞弥

出雲市での一人暮らしを始めて今年の夏で四年が経ちました。

昨年の十一月までは、アパートを借りて住んでいたのですが、今は一軒家で悠々自適な生活を送っています。周りは田んぼしかないのも、とてもどかな環境です。休みの日には、近くの湖を眺めながら、温泉に入ったりカフェでコーヒーを飲んでのんびりするのを楽しみの一つになっています。

田中 慎也

はじまり……この度のテーマは「はじまる」でした。常に様々な事が終わり、そして始まりが続いています。「新たな始まり」をむかえるにあたり、きつとそこにあった、「古の終わり」には「おつかれさま、ありがとうね」そして、「新たな始まり」には「こんにちは、よろしくね」と申したいものです。……あつー最近、漫画『エヴァンゲリオン』を読みはじめました。……おわり

野口 哲城

編 | 集 | 後 | 記



YBA WEB SITE



お念珠をいつもそばに○

腕輪念珠 & お念珠型ストラップ

☆ 腕輪念珠：200 円

☆ 念珠型ストラップ：500 円

お問い合わせ：浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟
TEL：075-371-5181(代) yba@hongwanji.or.jp